



## サポートカードからの対処例



グラフ1で「学校は楽しいですか?」「友達がいいますか」の項目の値がへこんでいたり、3で児童が表示されたたりした場合  
 →児童一人一人が「自分らしさ」「良さ」を見つけられる活動をしてみてはどうでしょうか? (例)朝の会や帰りの会の30秒スピーチ(お題例:夢中になっていること、自分ののんびりタイムは何をする? など)ほか  
 →該当児童へ聞き取りを。寄り添う気持ちを大切に。

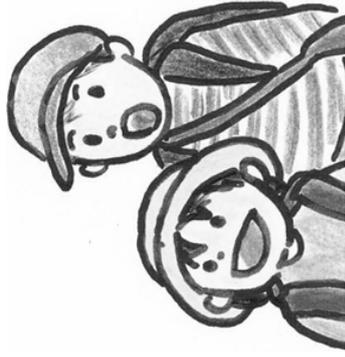
グラフ1で「かからいやなことやことをいわれたりされたりしたことはありません」「誰か意地悪をされていたりいやなことやをされているのを見たことがない」「心配なことや不安なことがない」の項目の値がへこんでいたり、3で児童が表示されたりした場合  
 →遊びを通してのルールを学ばせてみてはどうでしょうか? (例)「仲間に入れて」と言われたら断らない」「失敗したらドンマイという」など  
 →該当児童へ聞き取りを。寄り添う気持ちを大切に。

グラフ1で「自分が友達にしてもらったり、友達がしてあげているのを見たりして、気持ちがいいな、やさしい など思ったこと」や「自分が友達にやさしいことをしたり、やさしい言葉がけをしてあげられましたか。」の項目がへこんでいた場合  
 →『仲間の良さを見つけろ』『仲間の頑張りを喜べる』『喜びを表出できる』集団作りの取組をしてみませんか? (例)帰りの学活でプチレクで「共通点さがし」、「キラリは君だ!」など「ありがとう・できました」の木活動 など

2のグラフ「O&S」の分布図について。  
 ①右端に縦長に分布→「管理型」 ②全体に点が散在→「散漫型」  
 ③対角線状に右上がり分布→「潜在型」  
 →学級の雰囲気や満足した状態はありません。自己肯定感をもたせる活動、自己有用感を持たせる活動や遊びを通してのルールを学ばせてみてはどうでしょうか? (例)係当番の自主性を活性化させる一人一役活動、エンカウターなど。

★グラフや表に変化があった時には、一人で抱え込まずに、まずは、学年主任や生徒指導担当、管理職に相談しましょう。みんなで対応を考える「組織的な取組」で子供たちに柔軟な笑顔を映かせましょう!

## サポートカード活用マニュアル & ケース対処例



### 1. はじめに

本「サポートカード」は、子供たちの思いが反映された「学校生活アンケート」の結果とO&Sの結果を基に、教職員が児童理解をする際の指導すべきポイントを中心とし、組織的な生徒指導の実施をねらう資料として作成しました。サポートカードでは、学校生活アンケートで問われている観点を基に学級全体のバランスが分かるグラフとO&Sによる学級内の児童一人一人の位置状況を示すグラフを並列表示されます。客観的に学級の課題点を把握し、その上で、児童の問題点、さらには、学校生活アンケートで心配される回答をした児童を表記することで、情報の比較判断できるようになりました。

### 2. 見方・捉え方

- 「各グラフ」「気になる児童表示」は、それ単独で見ても判断するのではなく、それぞれを有機的に捉え、総合的に情報判断しましょう。
- ここでのグラフの結果や分布結果、気になる児童の表示のデータは、子供の生の情報あり、訴えでもありです。データを参考しながら子供たちと直に接し、対話をし、開明的・問題解決的に活用してください。
- 何よりも大切なのは、事案に気付いたら管理職、学年主任、生徒指導主任へ「報告」「連絡」「相談」をし、早期発見・対処できるようにしましょう。一人で抱え込まず、組織的に解決をしていくことが一番大切です。